

郷土の偉人・荻野吟子 ～不屈の精神～

本日、夏休み前の登校最終日を迎えました。この4ヶ月、新型コロナウイルス感染防止の取組を継続しながら、皆さんは充実した学校生活を送ってきました。5月の体育祭、6月の修学旅行などの学校行事はもとより、日々の学校生活を通して、3年生・2年生・1年生それぞれの成長した姿をみることができています。この1ヶ月間ほぼ毎日、どこかの教室で、皆さんが授業を受けている様子を見てきました。しっかり取り組めていました。

今、皆さんの手元には「荻野吟子」の冊子があると思います。この冊子は、県立熊谷女子高校の漫画愛好会の皆さんの協力で作られたものです。本校にも全生徒数分をいただき、配付することができました。熊谷市出身の荻野吟子さんは、日本で最初の女性医師です。埼玉県の大偉人（冊子の裏面参照）にも挙げられています。では、冊子を開いて下さい。1ページ目、ストーリーは「荻野吟子は嘉永4年（1851年）現在の熊谷市俵瀬に生まれた」というところから始まります。今から170年ほど前のことです。熊谷市俵瀬とは、妻沼にある地名です。少し時間をとりますから、3ページまで読み進めて下さい。

（間）荻野吟子さんが「女医になる」と決意した理由を含め描かれていました。女医になるまでの道のりはとても困難です。当時は現在と異なり、女性が学問をすること自体がのぞましく思われなかった時代なのです。吟子さんは、まず、学校の先生になるための学校「東京女子師範学校」に入学しました。それでは、5ページから7ページを読んで下さい。

（間）吟子さんが、医者になるための「医学校」に入学し、卒業する様子が描かれていました。第一関門は突破しましたが、正式に医者になるために国が実施する試験を受けることはなかなかできないようです。9ページからの続きを読んでみましょう。（間）第二関門であった試験にも合格し、正式に医師の資格を手にすることができました。この冊子以外でも、本を読んだり資料館に行ってみたりすると、女性医師までの道のりの困難さをさらに理解することができます。「女医になる」という決意を貫いたのは、吟子さんの、まさに「不屈の精神」でした。

不屈の精神は、吟子さんがそうであったように、困難や失敗に前向きに向き合う姿勢からも培われるといわれます。市や県の硬筆展に出品し受賞した作品が、職員室から保健室・理科室に向かう通路に掲示されています。皆さんも目にしたでしょう。素晴らしい作品です。あの作品の裏側には、多くの「失敗」があったのだと思います。仮に1枚を仕上げるために100枚を書いたのであれば、99枚の失敗があります。作品として最後の1枚（100枚目）を選ぶこともあるでしょう。100枚書いた後に、やはり2枚目に書いた作品を選ぶというのであれば、残りの98枚は無駄な失敗だったのでしょうか。私はそうではないと思います。自分の力を蓄え、磨く大切な経験であり、次の「成功の素」なのです。不屈の精神というものは、もともと存在するものではなく、困難や失敗を乗り越え、それを自分の力にしていくことで、次第に身に付くものだと考えています。

明日からの夏休み、いつもよりは自分の時間をもつことができると思います。勉強でも部活でも作品作りでも、困難や失敗に直面することがあるはずですが、前向きな気持ちで、粘り強く工夫を重ね、挑戦してみてください。有意義な夏休みにして下さい。